

## 明けましておめでとうございます。

令和4年がスタートしました。保護者の皆様も良いお正月を迎えられたことと思います。今年もよろしくお願いたします。さて、始業式では次のような話をしました。

「今日からお正月気分を切り替えてください。友達の抱負を聞き、先生方の話を聞き、自分の目標を再確認し、心や頭、体のスイッチを入れてください。

3学期は締めくくりの学期であるとともにスタート準備の学期でもあります。3年生は3月に卒業式を控えており、中学校生活3年間の締めくくりを控えています。それと同時に卒業後の進路を実現させるために、最大の努力をしなければなりません。まさに3学期は4月からのスタートの準備というより関門と言える学期です。3年生の皆さんは先生方から、『受験は団体戦』と言われていたと思いますが、まさにそのとおりです。ぜひ、みんなで力を合わせて立ち向かっていってください。

1、2年生は、それぞれ2年生、3年生になる自覚をもって準備してください。1年生は自信をもって中学校のことを後輩に教えたり指導したりできるようにしてください。2年生はあと3ヶ月で国光原中の中心として顔として新1、2年生を導いてもらう存在となります。

3学期を単に終わりの学期と考えるのか、スタート準備の学期と考えるのかで、日頃の取組が変わってきます。自信や目標をもって4月からのスタートがきれいな学期にしてください。」

保護者様も、3学期は次の年度へのスタートでもあることを意識していただき、お子様に接していただくとありがたいです。

なお、今の段階では3学期の行事等は計画どおり実施する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の影響で変更を余儀なくされる可能性があります。ご理解とご協力をお願いいたします。



今年の初日の出です

## 環境教育講演会

2学期終業の日に、県内のSDGs啓発の第一人者である難波裕扶子様、「未来を守る 未来をつくる SDGs ～宇宙船地球号船員の私たちのミッション」と題して講演をしていただきました。

SDGs（持続可能な開発目標）については、毎日、テレビや新聞で取り上げられていますが、学校全体としての学びが進んでいなかったために講演をお願いしました。

難波様は、人間の生活（特に先進国）のために地球が環境的、人権的に危機的状況に瀕していること、これからの10年の取組がその後の地球に大きな影響を及ぼすこと、そのために私たち一人一人ができることをしてほしいこと、を多くの画像やデータを用いて熱く語られました。

学校生活の前に人間の生活が、人間生活の前に環境が必要です。難波様の話を聞いて、人間が生活できる環境が続かないのではないかと大きな不安を覚えました。学校や地域、日本だけでなく人類の大きな課題となります。



難波裕扶子様

「日本人と同じスタイルで世界中の人が生活した場合、地球は2.9個必要です。」

下は3年生の林来春さんの感想です。

私は今まで地球温暖化やSDGsについてここまで深く考えることはありませんでした。そして地球がここまで危機的状況の中にあることを知りませんでした。そして今回私はすべてつながっているということを知ることができました。環境と貧困がつながっていないように見えて深くつながっていて、私が一番衝撃を受けたのが、今差別を受けたり貧困に苦しみ児童労働や強制労働を強いられたりしている状況を作り出したのは先進国である私達だということです。とても胸が苦しくなりました。そして未来はやってくるものではなくつくりだすものだと知りました。未来の子供達の環境をつくるのは私達です。世界は広くて自分一人なんて小さなものだけど、その一人の勇氣ある行動が世界を変えていくんだと気づくことができました。これから先、私にできることはとても小さいことかも知れないけど、世界はすぐに変えることはできないけど、自分達の将来のために、次世代の人たちのために、すこしずつでも前に進んでいけるように、小さいことから意識していきたいです。

